品川製作所紛議の眞相を明かにして

全勞働者諸君の批判に愬ふ!!!

一、紛議發生の遠因

我等品川製作所従業員は六年以前に組合を組織し、勞働総同盟に所属してゐたのであるが、総同盟の運動方針が漸次に堕落幹部の専有する處となるや、其の陰落幹部の専横を深とせず、光輝ある総同盟の戦闘的歴史を継承すべく、正義派の旗頭となり、相抗爭を続けたが正義派は陰落幹部の救ひ難きを知つて、遂に敢然として総同盟を脱退して日本勞働組合同盟を組織するに至つた。総同盟第二次の大分裂これである。

當時、吾等は正派と行を共にせんとしたが、総同盟堕落幹部と聲息一脉の相通ずる一部支部幹部は正派に弾圧を加へ、先頭に立てるもの數名の組合除名―解雇――を敢行して、防禦に努めた。然しながら、『邪は遂に正に敵せず』彼等の狂奔にも拘はらず、遂に昭和二年六月従業員一致の決定により支部幹部を交替せしむると同時に組合同盟に参加を決行したのである。爾来、吾等は組合同盟の力強の下に工場に於て平穏に作業すると共に、勞働組合運動進展の爲めに協力して來たのである。

然るに総同盟グラ幹と私交的に深まりつゝあつた彼等一味は機會ある毎に吾等従業員を総同盟グラ幹に捧げんと努めて來た。現に昨冬の日本大衆党合同問題當時も、幹部會席上に於て祝長党参加を提唱して滿場の嘲笑を買つた事實もある。

二、紛議發生の近因

総同盟グラ幹の意を受けて、吾等を彼等の犠牲物として捧げんと機會を覗ひつゝあつた彼等は今度の小林君の事件を巧みに抓へて彼等の野望を充さうとした。

総同盟は大阪を中心として戦闘的組合員約七千名の脱退を見、松岡君の牙城関東同盟に於ても内部的混乱があり、秋風落莫たるものがあつたので、何ゝとかして戦勢をモリ返すべく狂奔しつゝあつた所へもつて來て、小林君の事件がモチ上つたのである。彼等がこれを逃がさず捕へやうとしたのは彼等のやりさうな手ではある。

然らば小林君の事件とは何か、既に數次の解明書にも明かなるが如く小林君が幹部横領として二千餘圓の金を一時立替若くば遊興消費したと云ふのである。支部全員の信任によつて會計に選擧せられたるものが、其の信任を裏切つて支部の金を遊興消費するが如きは決して良いことではない。されば之を、秘密に拘留もせられ、取り調べも受けたのである。

拘留取り調べの若干は本人に對して充分に懲戒の目的を達し、本人も心から前非を悔悟して、ひたすらに謹慎して謝罪を待つてゐた。『罪を憎んで人を憎まず』數年間、職場を同じして働いて來た仲間が、一時の不心得から犯した罪をどうして、何處までも本人の將來を暗黒世界に葬つてしまうまで攻めなければならない理由があるであらう。

消費金に對する賠償方法が講ぜられ、本人が深く悔悟し誠心誠意を以て自責の念に攻められ、慚愧してゐると云ふならば堪